

日光を浴びたら腕が赤くはれてポツポツができました 光線過敏症の可能性が 있습니다

中野皮膚科クリニック

<http://www.nakano-derma.com/>

日光を浴びると、赤くはれて紅斑、紅色丘疹、じんましんが出る症状について、中野皮膚科クリニックの松尾光馬院長に聞きました。

「日光が原因で起こる症状にはどのようなものがありますか？」

「まず、「日焼け」と呼ばれる日光皮膚炎があります。これ以外にじんましん様の皮疹や紅斑、ぶつぶつ盛り上がりのある丘疹などを生じる光線過敏症(日光アレルギー)が

「日光じんましんは日光にあたるとすぐ発症する、かゆみを伴うじんましん。抗ヒスタミン薬の内服や遮光で治療します。場合によっては紫外線を徐々に照射してメラニンを増やし、光線に対する感受性を弱めること

「日光じんましんは一部の人では通年性でなく初夏の紫外線が強くなり始めた時期のみに発症することがあります。治療はステロイド剤を使用します。光線過敏型薬疹は特定の薬の使用後に日光にあたると現れます。原因となる薬をやめることで改善します。疾患により原因や治療法も異なるので、まずは皮膚科で

も行います。多形日光疹は紅斑、丘疹、湿疹など多彩な皮疹を生じます。一部の人では通年性でなく初夏の紫外線が強くなり始めた時期のみに発症することがあります。治療はステロイド剤を使用します。光線過敏型薬疹は特定の薬の使用後に日光にあたると現れます。原因となる薬をやめることで改善します。疾患により原因や治療法も異なるので、まずは皮膚科で

「まず、「日焼け」と呼ばれる日光皮膚炎があります。これ以外にじんましん様の皮疹や紅斑、ぶつぶつ盛り上がりのある丘疹などを生じる光線過敏症(日光アレルギー)が

「日光じんましんは日光にあたるとすぐ発症する、かゆみを伴うじんましん。抗ヒスタミン薬の内服や遮光で治療します。場合によっては紫外線を徐々に照射してメラニンを増やし、光線に対する感受性を弱めること

「日光じんましんは一部の人では通年性でなく初夏の紫外線が強くなり始めた時期のみに発症することがあります。治療はステロイド剤を使用します。光線過敏型薬疹は特定の薬の使用後に日光にあたると現れます。原因となる薬をやめることで改善します。疾患により原因や治療法も異なるので、まずは皮膚科で

診断を受けましょう。

日光じんましんは紫外線よりも可視光線に反応するため、日傘や帽子、服などで物理的に遮光することでより効果が得られます。多形日光疹は紫外線で生じるため、サンスクリーン剤の外用が有効です。光線過敏型薬疹は紫外線A波が主な原因。PA値の高い日焼け止めを使用しましょう。」



日光にあたり赤くなっただけでなく、かゆみや湿疹が生じたり、一度皮膚科で診断を受けましょう。」



診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30 ~ 13:00	○	○	○	○	○	○
15:00 ~ 19:00	○	○	○	○	○	17:00 まで受付

休診日:日曜、祝日

院長:松尾光馬 日本皮膚科学会皮膚科専門医、医学博士。東京慈恵会医科大学医学部卒業、同大附属病院皮膚科非常勤講師

問い合わせ
中野皮膚科クリニック
中野区中野2-30-3、マルニビル5階。中野駅南口徒歩2分
☎03-5342-0722

2015年6月27日付 「リビング東京副都心」に掲載されました